

# 大網ロータリークラブ

## Club Weekly Bulletin



- クラブ創立：2000年1月13日
- 例会日：第1・第3水曜日（12：30～13：30）
- 例会場：中部コミュニティセンター  
TEL0475-73-3337 FAX73-4360
- 事務所：〒299-3251  
大網白里市大網450-6 ユアサビル2階  
TEL0475-70-0200 FAX70-0220
- 会長：高野 祐二 幹事：板倉 孝雄
- 広報・公共イメージ向上委員会  
委員長 斉藤 幸男・会報担当 石田 英世



2020年9月16日(水)

第22巻第 7号

通巻第950号

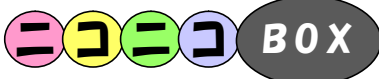
http://www.oamirotary.com  
E-mail rc@oamirotary.com



ロータリーは機会の扉を開く



- 点 鐘 会長 高野 祐二  
ソング それでこそロータリー  
会長挨拶 会長 高野 祐二  
幹事報告 幹事 板倉 孝雄  
プログラム  
①「ロータリー財団セミナー」報告  
②会計決算・予算説明  
③会員卓話  
セミナー出席者 板倉 孝雄 幹事



加藤 洋三 会員

誕生日プレゼントありがとうございます。

高野祐二会員

昨日は、3クラブの親睦ゴルフコンペに行きまして、次回は、当クラブが主催となります。多数の参加をお願い致します。

板倉孝雄会員

昨日9月1日は、3クラブ合同親睦ゴルフコンペでした。楽しい親睦でした。良かったです!!

例会日	9月2日	8月19日
会員数	30	30
出席	18	21
欠席	12	9
MU	0	0
免除	0	0
出席率	60.00	70.00

### 会長挨拶

高野 祐二 会長



皆さんこんにちは。9月になりました、3か月目に入りました。挨拶の方はいまだに慣れません。世間的にはコロナの問題で色々自粛が続いている中で、本市に関しては、感染者2名のまま推移しています。優秀なところではないかと思っております。

でも、このまま増やさないようにまたがんばっていきたいと思っております。

本日の挨拶ですが、ロータリーの世界各国共通の課題とありますが、活動、「ポリオ撲滅」ですが、吉報の方が届いておりますので、こちらのほうを話させて頂きたいと思っております。マイロータリーを御覧の方は、もうご存知かと思いますが、読ませていただきます。

いつも大変お世話になっております。ロータリーポリオプラス、ロータリーカード小委員会からのご連絡です。アフリカ地域の野生型ポリオ根絶認定について。

ロータリアンの皆様。この度、世界保健機関 WHO アフリカ地域の野生型ポリオウイルス根絶が認定されたこと、喜びとともにご報告申し上げます。アフリカ地域から野生型ポリオをなくすために、ロータリー会員は計り知れない役割を果たしてきました。

懸命な活動によりアフリカだけでなく世界のほぼすべての国において、野生型ポリオウイルスを根絶してきたことを、私たちは誇りとすべきです。この進展はアフリカ地域の全47か国における数十年間の取り組みの成果です。これには、徒歩、ボート、自転車、バスによる数百万人もの保険ワーカーの移動、紛争地域や政情不安地域の子供に、ワクチンを投与するための画期的な戦略、末期症状の検査や下水でのウイルス検知のための膨大な監視ネットワークも含まれます。過去20年間、アフリカ地域と、世界中の無数のロータリー会員が、資金調達、子供へのワクチン投与、自治体政府リーダーへの支援呼びかけ、予防接種の重要性に対する認識向上のために一体となって活動し、世界ポリオ根絶推進計画によるポリオ症例の効果的対応と、感染拡大を主に支援してきました。これは、ロータリーアフリカ地域GPIのパートナー団体にとって、世界全体のポリオ根絶に向けた大きな一歩となるものです。しかし残る二つのポリオ常在国で、ポリオに打ち勝つまでは、活動を継続していかなければなりません。

この残る二つというのが、アジア地域のパキスタンとアフガニスタンと言われております。これまで私たちはポリオ根絶活動を通じて多くの課題に直面しつつも、目ざましい前進を遂げることができました。ロータリアンが支援したポリオのインフラ構築は今後数十年にわたって他の疾病から子供たちを守り続ける継続的な遺産となります。

今、私たちに求められるのは、ポリオ根絶へのコミットメントを新たにすることです。この戦いに勝利し、ポリオプラス、毎年5千万ドルの資金を調達するために、ひとりひとりの貢献が必要とされます。このたびの快挙は、世界全体でのポリオ根絶が、実現可能であることを示し、新型コロナウイルスの世界的流行のなかでも、活動と協力、そして寄付を通じて、前進できることを物語っております。アフリカ地域での野生型ポリオフリー実現に至る、皆様方からのご支援に心から感謝致しますとともに、ポリオのない世界という私たちの約束を果たすため、引き続きご支援を頂きますようお願い申し上げます。という事が届いております。アフリカ地域は一応、なくなった。あと残るアジア、それがなくなるまで、今後とも活動を続けてまいりたいと思っております。以上となります。ありがとうございます。

## 7月誕生祝い



加藤 洋三 会員  
S17(1942)9月2日

星野 実 会員  
S26(1951)9月24日

おめでとうございます。

## 8月奨学金授与式



スリランカ出身 ロシヤーン君

## 幹事報告

幹事 板倉 孝雄 会員



幹事報告します。

第3回の理事会がありました。子供食堂の支援。台湾国際大会の申し込み。寄附金の報告。ロータリー財団寄付の報告。米山記念奨学会への寄付報告。

ガバナー公式訪問打ち合わせ。

スリランカの学友 サジーさん。外務省より帰化を許可。次回例会にてロータリー財団セミナー報告予定。

## 卓 話

RLI 推進委員会 委員 清田 浩義(千葉RC) 様



改めまして、皆さん、こんにちは。今日は、大網ロータリークラブにお声をかけて頂きましてありがとうございました。高山さんには後でゆっくりお話し頂きますので、よろしくお願い致します。

今日は、皆様なかなか馴染みがないと思います。RLI といひまして、ロータリー・リーダーシップ・インスティテュート ロータリーリーダーシップ研究会、こういうプログラムになります。

今日の目的は、RLI を皆さんに知って頂くことと、そしてこのRLI に皆さん興味をもって頂くことです。

ロータリーの話をしなが、多分、クラブのなかで、どういう奉仕プロジェクトをしようか等々の、お話をすることがあっても、「ロータリーとはなんなんだ？」ということをお話をする機会というのは、あまりないと思います。このRLI は、そういう意味では、ロータリーについて、「ロータリーというのはこんなものだ。」「私はロータリーをこんな風に思う。」ということをお話をして皆さんで語り合ってください。そんなところでありたい。

ロータリーリーダーシップ研究会とは、何なのかについて、少しお話をさせていただきたいと思ひます。

ロータリーリーダーシップ研究会、RLI といひますけれども、理念。こんなことを考えているということになります。

「ロータリーリーダーシップ研究会は、質の高いリーダーシップの研修を通して、クラブの活性化を願ひ、草の根運動のプログラムである。」これは、前からいろいろRLI というのは世界中で、430 地区くらいの世界の地域で広まっています。よく先輩達が、お話をされたのは、「このプログラムは、国際ロータリー (RI) で認定されたプログラムではない。」ので、参加に対して、結構躊躇される方がいらっしたのですが、「草の根運動のプログラム」、ちょうど、米山 (米山記念奨学会) も、ある意味では、日本国内の、地区共同のプログラムですので、意味合いからすると、同じようなことだと思ひます。

「RLI はロータリアンがロータリーへの思いを自由に語り合ひ、個々のモチベーションを確実に高めていく語りの場。」ここにありたい「研修の場」、には違ひないけれども、研修するということよりは、「みんなでロータリーを話し合おう。」そんな場場という話であります。それから、これはどう感じられるのかわかりませんが、私も千葉ロータリークラブに入会してちょうど10年で今年の6月まで会長職を務めていました。

大網ロータリーはそんなことはないと思ひますが、千葉ロータリー、私が入ったときは、オリエンテーションもなければ、全く何もありませんでした。私は、入会を紹介された方に、「清田さん。千葉ロータリークラブ、何もなくてよいところだから、楽でよいから入りなよ。」と言われて、なにもせず、昼飯を食って、帰っていた。という5年間を過ごしました。そのなかで、今、高山さんと同じように、私も幹事役を仰せつかるにあたって、「行ってこい。」といわれて、行って、このRLI との出会いがあったということです。

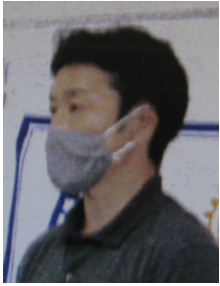
RLI に行く、第2790地区全体からみえますので、私が描いていた千葉ロータリークラブ、あるいは、私が描いていたロータリークラブとは、いかに違う物の考え方を持っている方が、沢山のRLI にいらっした。ということになります。RLI は、出会いの場、語りの場、RLI 参加のゴールは、ロータリアンとしての成長と、ロータリー観の確立。

私も、「ロータリーとは、何なんだ。」って、言われたときに、「これがロータリーだ。」という一つの答えがあるわけでは、たぶんないと思ひます。高山さんがお考えになる「私のロータリー」というものがきつとあると思ひますし、高山さんは高山さんなりに考える、「ロータリーとは、こういうものだ。」僕は、ロータリアンの数だけロータリー観があってもよいかなど、いう風に思うのですが、そのロータリー観を皆で語るということが大事だと思ひますし、そんな場場でもあります。

さっきお話ししたように、日本は34地区あり、そのうち24地区が、今このRLI をやっています。皆さんに聞いて頂いて、「面白そうだ」と思頂くと、なによりですが、だんだん地区が増えております。



大越 将司 会員



本日の理事会にて、子供食堂の支援を具体的に頂きました。7月末から8月にかけて、大網白里市の子育て支援課に協力を頂きまして、市内に400世帯ある、一人親世帯に配布して申込を受け付けています。現在4世帯で、10食ぐらいの申込がありません。10日まで受け付けをしています。ただお弁当を配るだけでは味気ないので、イラストレーターにお弁当の包み紙を考えてもらいました。「妖怪アマビエ」が流行っているので、ロータリーの『ニコニコボックス』に因んで、大網ロータリークラブ協賛として、「ニコニコ弁当」とさせて頂き、「大網ロータリークラブ協賛」と入れさせてもらいました。こんな感じでかわいくお配りしようと思っております。お弁当のほうはこちらの方で用意するのですが、野菜などご自宅に多めにあり、寄付できるよ。という方がいましたら、お弁当と一緒にお渡し出来たら喜んでもらえると思いますので、是非ご協力いただければと思います。その際はよろしくお願ひいたします。



最近話題の「アマビエ」をモチーフにコロナ退散を祈願しています。

また、やろうという区が増えておりますし、全世界でも増えております。たしかにロータリーの会員数が減っているなかで、何故、RLI という活動が、面白そうで、増えるのかというところが非常に面白いところです。実は、1992年に、アメリカニュージャージーの、元RI理事、リンネットさんという方が始めたプログラムです。

ちょうど1990年代、バブルが終わりかけたころ、アメリカも間違いなく会員がどんどん減っていて、1980年代、「ジャパンイズナンバーワン」といって、ニューヨークのロックフェラービルを買ったりしていたころに、アメリカがどんどんどんどん衰退をして、ロータリアンの数も減っていきました。そのなかで、どういう風にしたら、ロータリーを再活性化できるのだろうか、というのが、このRLIプログラムの始まりです。

今、話したように世界420地区、日本の24地区が、今参加をしているところであります。足元をみてみますと、RLIが始まって、ちょうど10年になります。皆様ご存知の織田さんがガバナーの時から始まって、諸岡さんの時までちょうど10年、RLIは経過しました。

毎年参加メンバーは、こういう時期で、高山さんが参加されたのは、5期〜6期くらいかと思われま。私が参加したのは5期ですので、そういう意味では高山さんとはほぼ同じくらいの経歴になると思います。当地区の第7グループは、来年は、再編成ありますか？(会場より再編ない)同じクラブの方々が来年も第7グループになる。大網ロータリーは、

(RLI参加者)は、高山さんお一人ですが、同じ地区でまだRLIに参加をされていないクラブが二つありまして、茂原中央RCと東金ビューRC、この二か所が、RLIにまだ参加されていないのです。今、私はRLI推進委員会ですが、推進委員会は、全地区82クラブのうち、71クラブには参加頂いていて、11クラブがまだ参加を頂いていません。今、推進委員会の役割としては、この11クラブ、まだ御参加頂いていないクラブに、是非、参加頂こうということで、今、こうやって営業マンのように、回ってお話をさせていただいているところです。参加はこの第2790地区だけではなくて、他地区、東京の方にも、このRLIに参加を頂いて、色々勉強をして頂いています。

今日は、松戸西RCの山本さんに来て頂いておりますが、ディスカッションリーダー(以下DL)といわれる方が、113名いらっしゃいますので、是非、高山さんも、DL目指して、頑張ってくださいと思っています。今、話した状況を書きましたけれども、第7グループは、茂原中央RCと東金ビューRCが、まだ、(RLI参加者に)入っていない。

このRLI推進委員会を始めて、少しずつ輪が広がっていつてますが、松戸西RCの山本さんもそうですが、一クラブに、高山さん一人ですと、一人じゃ寂しいですよ。

一人が二人に増え、2人でRLIの話をしだすと、「RLIって面白いんだよ。」と、いう話が、だんだん広がっていく、というような、そういう意味では山本さんもそうですが、私もRLIを通して地区内の色々な方と、お友達になってきているということもあります。

是非、少しでも皆さんに経験して、参加して頂きたいと思っています。

今、皆さんの手元に本(RLIのテキスト)を置かせていただいています。御覧になって頂いて、「こんなもんなんだな。」と、見て頂いたあと、回収させていただきますが、それなりに見てみると、結構しっかり、世界中で同じことを教えていますので、ある意味ではこれを見ると、世界中のロータリアンと同じ目線で、ロータリーを語れるといっても過言ではないのかもしれませんが。私も最初、入ることは、「幹事になるから、行かなくてはだめだよ。」「しょうがない。」とか、言いながら、たしかに1日、1セッション50分が6セッションあり、3日間行くので、確かに一日、ちょうど来週の月曜日10時から始まって、夕方5時までですから、ちょっと大変といえば、大変かもしれませんが、3日行って、ロータリーがわかってしまう。ということでいえば、決して、1回3000円ですから、高いものではないという風に思っています。ましてや今回、RLIは、ボランティアのDLの方々が、皆さんのお話を引き出すような、そういう役割を演じて頂いて、みんなで作り上げている。そんな、研修会であります。この3日間の、「こういう風にやるんだよ。」というところを説明したいと思うのですが、パートI・パートII・パートIIIと段階がありまして、皆さんキャリアの長い方が多いかもしれませんが、パートIでは、「ロータリアンとしての私」、まさに入会、ここで一番入会の浅い方は、どなたですか？

(会場で、入会一番浅い方の挙手あり。)[「入会何年ですか?」「2年。」そうですか。私もそうでしたけれども、ロータリアンになり、ロータリアンがしなくてはならない、ロータリアンは何をすべきか?等々、こうあります。けれど、どうも、そんなことを言っても、ロータリーって、私自身もそうなんです、なんとなく、話しはわかるけど、どこか自分の中で、まだ釈然としない。等々そんな気持ちになる時もないこともないです。

このパートIでは、ロータリアンとしての私ということ一人のロータリアンについてみんなで話し合います。テキストのなかにもいろいろとセッションテーマが書いてあります。パートIについては、ロータリアンについての私。次が(パートIIでは)ロータリークラブです。

## RLI に参加して



高山 義則 会員

ロータリーに入会してから 5~6 年目にRLI の講習を受けさせて頂きました。

とても良い内容であり、いろいろな方ともお話が出来、とても勉強になりました。

「あっ、こんな事考えているんだ。」とか、ロータリー年数も 3 年くらいの方から、15 年くらい経験した人など、いろいろな方がいたのですが、私のロータリー歴はちょうど 10 年目ぐらいだったんですが、「みんな若いのによく勉強して、よく知っているな。」と、そのように感じ、恥ずかしい思いもしました。

10 年もやっていて、こんな程度のこともわからなかったのか。と思いました。

このような経験もありましたので、皆さんにも、楽しい場ですので、是非参加して頂きたいと思っております。

## ガバナー事務所より

国際ロータリー日本事務局 経理室よりご連絡です。

2020 年 9 月のロータリーレートは、1 ドル=106 円と My ROTARY に

掲載されておりましたのでお知らせ致します。

日本事務局に着金した月の RI レートが適用されます。

月末にお振込みされる際は十分にご留意ください。

よろしくお願い致します。

ロータリークラブは、どんなロータリークラブにしていこうか？

まさに、ロータリークラブは、ひとつひとつのロータリークラブが力強く生きるということなので、ロータリークラブについて、勉強します。話し合います。パートⅢでは、「ロータリーの旅。」ということですが、ロータリーは卒業がないといいますし、そういう意味ではいくつになってもロータリアン。そして、年をとりながら、ロータリーとは何かということを考えていく。こんなことで、ロータリーの長い歳月が過ぎていくわけですが、このカリキュラムは、「ロータリーと私」そして「クラブ」「ロータリーの旅」という風に流れていきます。ですから、同じようなテーマがあっても、少し話し合いの切り口が違うということが非常に面白いところかもしれません。

そしてそのなかで、ロータリーにとって大事なものは、サービス、奉仕、それから、メンバーシップ、そしてリーダーシップ、この三つを、それぞれのパートのなかでからめながらすすめていく。こういう構造になっています。なかなかうまくできているなど思っています。先程お話ししたように、世界共通のテーマ、そして、テキストのなかにも米山の話も書いてありますが、その地域の特性に合ったカリキュラムとして、成立しています。

RLI の日本支部というのがある、そこで、中身、カリキュラムが少しずつ変更しながらやっています。

この RLI、先程、次期会長エレクト、そして、石田さんとお話しましたが、会員歴の浅い方でも、全然僕は良いと思うんですね。結構、参加される方って、どういう方でないといけないというのが全然ないので、入会間もない方でも、全然結構ですし、行ってみると、結構ロータリーの先輩の話聞ける、それと、今、高山さんがお話しされたように、入会間もない方が、私が何十年前に入ったとき、どんな風に考えていたのかなど、若い方の話聞ける。という、そんな意味では、とても貴重なプログラムだと思っています。

先程、幹事の方がお話しされていたように、漆原さん（ガバナー）がお見えになりますが、漆原さんも結構、RLI にハマっていますので、ちょっと RLI の話などすると、結構乗っている質問などして頂けると幸いです。

あまり時間がないので、皆さんからの質問は、あとで高山さんに質問して頂き、高山さんがお答えいただくということで、すすめたと思います。

最後になりますが、ロータリーそれ自身が、米山梅吉の言葉をかりれば、「人生道場」という言い方もあるようですが、この RLI は、このウィリアム・ロビンズという方が、こんな風に話しています。RLI ではなく、ロータリーをこんな風に話しています。

**「ロータリーは、人生教育の最も優れた実験場である。ロータリーの第一の目的は、親睦と奉仕を通して、人を育てることである。クラブの価値は、そのクラブがいかなる人材を育てたかによって、計られる。それ以外の何があるであろうか。」**

なかなか、考えさせられる、言葉で、あります。1974-75 年会長といいますと、随分前の、RI の会長でありますけれども、今の、この時代のロータリーのなかで、そして、まさに、皆さんの、世界中の皆さん、人類が、コロナといかに戦うのか、共存するのか。そして、時代は大きな変化のときだろうと思います。先程、子供食堂の奉仕活動の話もありましたし、こんな時代だからこそ、ロータリーとして、これからも活動しつづけなければならぬ。という風に思います。そのなかで、まさに人を育てる、ひとつの糧に、あるいは、先程高山さんがお話しされたように、RLI に参加して、とても楽しかった。と、こういう体験をしていただけるような、RLI の活動を今後も続けていきたい、と思います。

## 来年度 R L I 開催予定

パート I 2 月 6 日 (土)

パート II 3 月 13 日 (土)

パート III 4 月 3 日 (土)

是非、小倉会長エレクトの参加をお待ちしておりますので、よろしくお願い致します。それでは、今日は、どうもありがとうございました。拙い卓話になりました。ありがとうございました。